

「北海道一周鉄道旅行(9)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

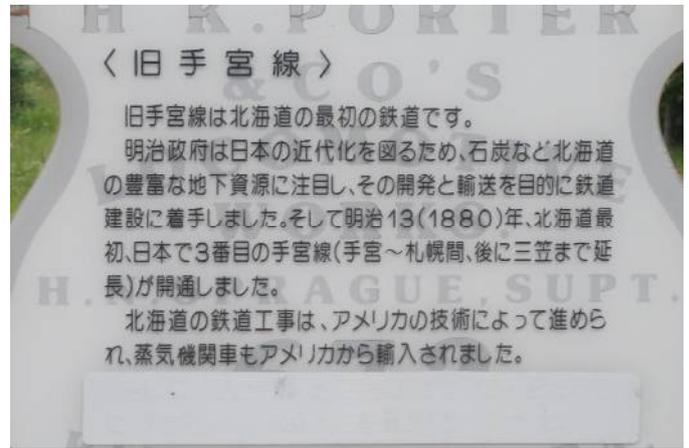
道央を旅行して、小樽に立ち寄らない人はあまりいないでしょう。日本人のみならず、外国人旅行客にも非常に人気が高い街です。札幌から電車に乗って1時間以内で行けること、そしてほとんど徒歩だけで街の中を一周できることも魅力でしょう。



そうは言っても、小樽に来たのは久しぶりなので、駅前にあった地図で確かめました。小樽の街は非常にわかりやすく、駅から北に向かって15~20分も歩けば、間違いなく「小樽運河」につきあたります。たぶんチンパンジーでもコオロギでも迷わないでしょう。小樽駅から小樽運河までの道は緩い下り坂なので、行きは楽ですが、帰りはちょっと大変です。



途中に一所「踏切」があります。といっても、線路側が塞がれていて、列車が来る気配はありません。線路の上を散歩する人や、線路端で記念写真を撮る人もいて、線路というよりは現状は「遊歩道」に近い雰囲気になっています。



これは「旧手宮線(てみやせん)」という、廃線跡です。詳細は写真の通りなので、説明は省略します。



鉄道というのは土地を「細長く」利用しているので、廃止になっても「どこかに何か」が残ります。大抵は生活道路の一部として利用されます。鉄道はもともと緩勾配なので、サイクリング・ロードとしても最適です。しかし小樽の手宮線跡は、レールがそのまま残されていて、今にも列車が来そうところが素敵です。



小樽といえば、何と言っても海鮮丼やお寿司でしょう。運河への道の脇にも、そういう誘惑がたくさんあったのですが、あまり時間がなかったのと、かばんの中に「いかめし」があったので、あきらめました。



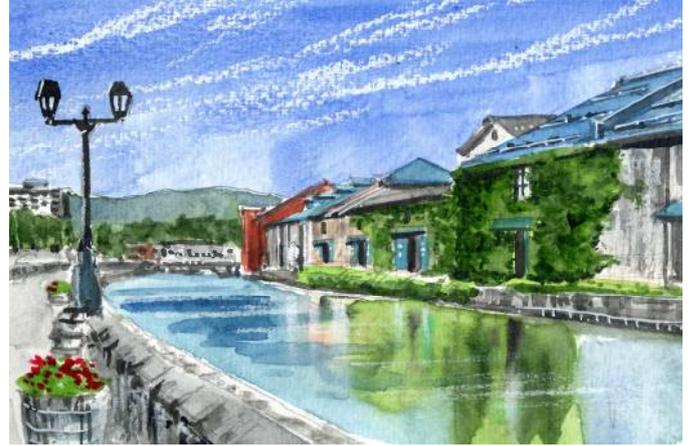
東京を朝発って、鉄道だけを乗り継いで、明るいうちに小樽運河に着きました。運河端には遊覧船もあったのですが、結構待っている人がいて、今回は乗らずに散策だけにしました。



この日は平日の夕刻でしたが、結構な数の観光客で賑わっていました。見たところほとんどがアジアからの外国人旅行客のようでした。私も何かの客引きに中国語で話しかけられたので、「不要！（プーヤオ）」と答えて、バイバイしました。

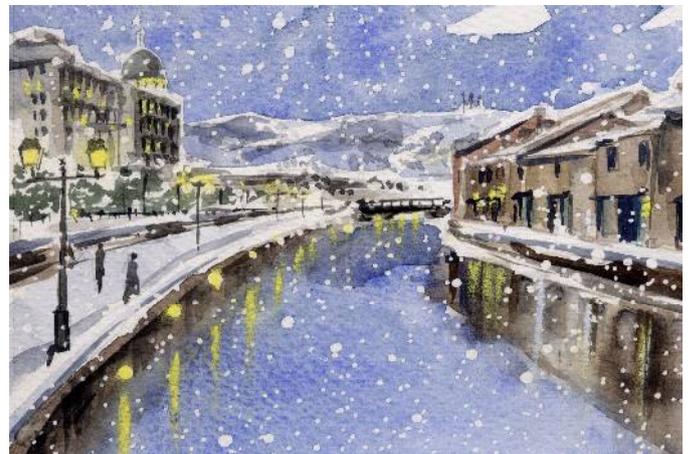


夏至に近い日だったので、ちょっと明る過ぎて、曇り気は今一つでした。もう少し時間が遅かったら、運河の夜景を見られたのにと、残念に思いました。



「小樽運河の反映」(画；C.Tanaka)

小樽運河は絵になります、構図が整いすぎていて、かえって描きにくい感じすらします。



「雪の小樽運河」(画；C.Tanaka)

特に雪の日の夕暮れ時は、この運河が最も美しい姿を見せる時だと思います。次回は1月か2月の雪の日に来たいと思いました。



小樽市内を2時間ほどクマみたいにウロウロしたあと、札幌に戻りました。札幌駅周辺のホテルは高いのですが、駅から離れるほど安くなります。今日の宿はすすきのの近くです。歩いても行けるのですが、地下鉄に乗りました。スイカが使えて助かりました。